

静岡地区自転車通行空間整備事業(整備中)

ワークショップ

○利用車ニーズを反映した自転車通行空間を整備するとともに、自転車通行空間の利用ルールへの地域・利用者の理解を深めるため、沿道住民、高校生等を交えたワークショップを開催し、地域協働で整備内容を検討。

○「自転車は歩道走行が当然」という認識が浸透していたため、毎回、『自転車は「車両」であり車道通行が大原則』という基本ルールや走行マナーへの理解を深めるための講習を実施した上で、グループワークに入った。



<警察関係者による講習の様子>



<地域住民と高校生が議論>



<高校生による発表>

【ワークショップ】

沿道住民
高校生(自転車利用者)
タクシー協会
(プロドライバー)
自治体
警察
交通安全協会

協働

(意見交換・
合意形成)

【運営】

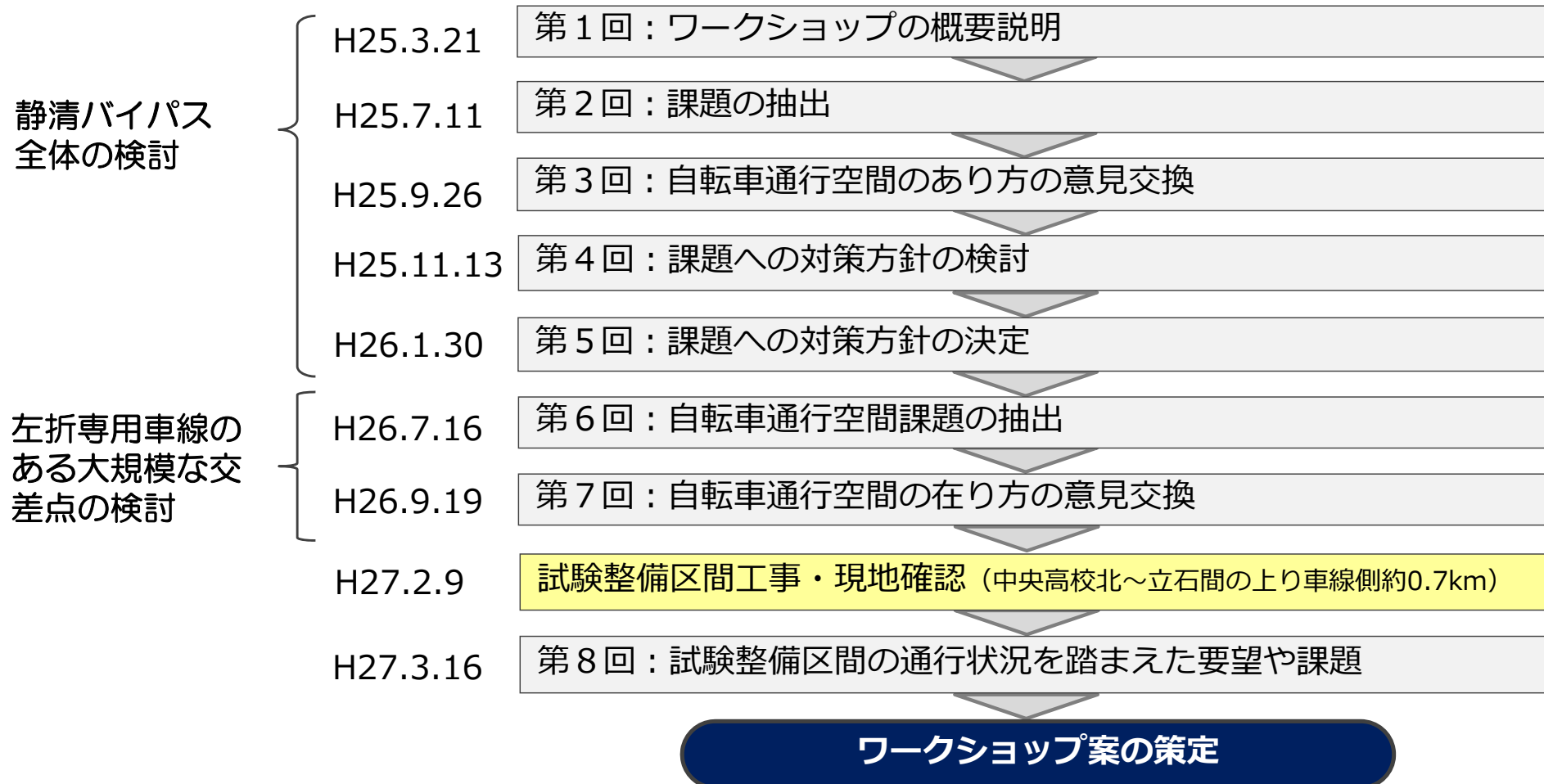
ファシリテーター
(埼玉大・小嶋准教授)
オブザーバー
事務局

※検討・設計・提案

静岡地区自転車通行空間整備事業（整備中）

ワークショップ

- ワークショップは、静岡バイパス全体を通じた課題と対応方針の検討を行った後、左折専用車線のある大規模な交差点の整備のあり方や通行方法等について討議。
- 試験整備区間の工事、現地確認を経て、最終的なワークショップ案を策定。
- 2年間（H25.3.21～H27.3.16）で合計8回開催。



静岡地区自転車通行空間整備事業

主な意見（課題）

○ワークショップを通じて、静岡ハイバス側道部への自転車通行空間整備に向けた様々な意見や課題が出された。

分類	主な意見（課題）
①道路構造	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>副道は自転車と自動車とが接触する危険が少ない。</u> ・ <u>幅員が狭い箇所や側道と副道の交差箇所では、自動車と自転車、自転車同士が接触しそうになる。</u> ・ <u>植栽やフェンスにより遮られ、自動車・自転車のお互いを認識できない箇所がある。</u> ・ <u>照明灯の設置がなく、夜間の自転車走行が危険な箇所がある。夜間は暗くて自転車専用通行帯がわかりにくいのでは？</u> ・ <u>寒い日は、水溜りが凍ってスリップしそう。</u> 等
②自転車走行位置の案内	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自転車の走行する箇所がわかりにくい。</u> ・ <u>歩道の自転車通行を許可する看板がないので、歩道を走行してよいのかわからない。</u> 等
③自転車走行マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自転車走行の基本的なルールを理解していない人が多い。</u> ・ <u>横断箇所において、一時停止無視や信号無視、信号を避け、信号待ちで停車中の自動車間を横断する自転車が見られる。</u> 等
④自動車マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>副道に停車している自動車があり、避けようとする自転車と走行する自動車とが衝突しそうになる。</u> ・ <u>自動車の確認不足により横断する自転車と衝突する可能性がある。</u> 等

静岡地区自転車通行空間整備事業

整備計画への反映

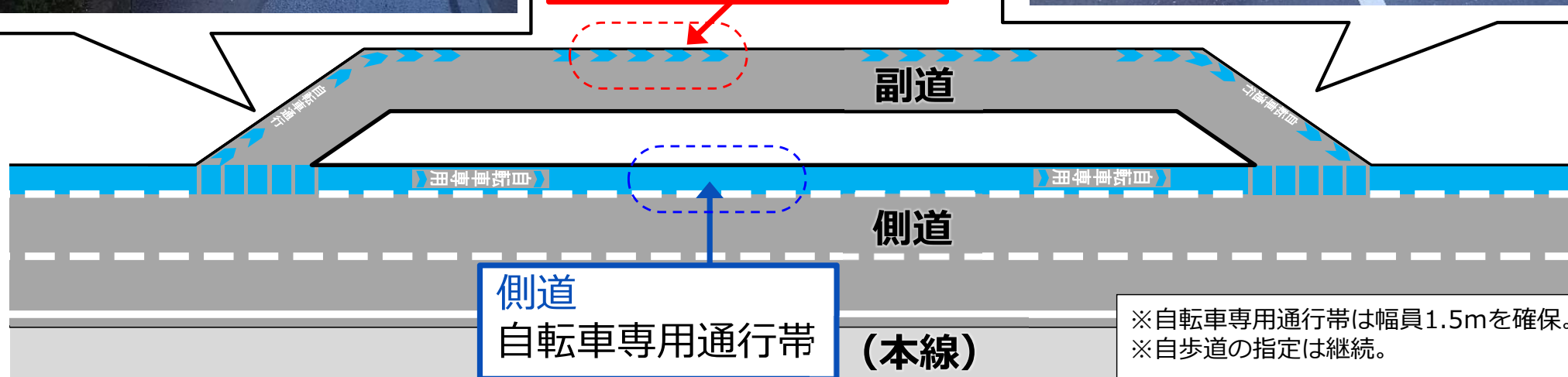
- 「側道よりも交通量が少ない副道を通行したい」という利用者ニーズへの対応を図る整備計画を検討。

【合流部】 副道から側道への円滑な導流、走行位置の明示による出会い頭事故の解消。

【分流部】 側道から副道への円滑な導流、副道通行ニーズへの対応。



副道
アローマーク
(矢羽型路面表示)



※自転車専用通行帯は幅員1.5mを確保。
※自歩道の指定は継続。

静岡地区自転車通行空間整備事業

整備計画への反映

○自転車の車道通行の原則を、自転車及びドライバーの双方に示し、交差点内における自転車の車道通行の安全性を高めるための路面表示方法を検討。

【単路部】 できる限り連続的な通行空間を確保（安易に自歩道に上げない）。

【交差点部】 自転車利用者に交差点内の動線（通行位置）を示す。

単路部

単路部
（自転車専用通行帯）



交差点部

交差点部
（自転車通行空間を示す路面表示）



通行空間
を連続

⇒ 今後の路面表示方法等は、「静岡県自転車道等設計仕様書（H29.3改定）」に基づき設置。

静岡地区自転車通行空間整備事業

WSにより得られた効果

- きめ細やかな対応を整備計画に反映。
- 沿道住民、高校生（自転車利用者の観点）、タクシー協会（プロドライバーの観点）、自治体等の立場により、様々な意見（課題）があることを、参加者全体で共有

【参加者の意見を踏まえたきめ細やかな対応の例】

- 寒い日は、水溜りが凍ってスリッパしそう

⇒ 水溜まりになるようなところを事前に確認し、舗装を修繕



水たまりの発生しやすい箇所

- 夜間は暗くて自転車専用通行帯がわかりにくいのでは？

⇒ 整備区間は夜間雨天でも視認しやすい高輝度タイプの路面標示（白線）を採用



高輝度タイプの白線

【その他の効果】

- 地域住民、利用者が自ら考えることで、安全意識が向上した。

⇒ 整備後のアンケート調査にも協力的であった。

- 地域住民や利用者の意見を踏まえた整備内容とすることができた。

⇒ 整備の手戻りや利用者の不満を軽減できた。